

# 日刊 動労千葉

85. 7. 31  
No. 2003

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 「6・12」デッチ上げを許すな！

## コロビ屋＝嶋田誠

### 「業務妨害された」とデッチ上げ タレ込み、当局に「処分」を要請

七月二六日に監理委員会の「答申」が出され、「分割・民営化」一十万人首切り粉碎にむけた国鉄労働者の総決起が求められているまさにその時、動労「本部」革マルは、自分達だけは生き残ろうと当局にひれ伏し、あろうことかコロビ屋まがいのことまでして動労千葉や国労組合員の首切りを要求している。われわれは、こうした反動分子の悪辣な策動を断じて許さず、職場からの一掃にむけて闘いぬかなければならない。

#### 動労千葉組合員を挑発し

七月二二日、デッチ上げ「千葉地本」の革マル嶋田誠らは、動労千葉の組合員に挑発をしかけ、なんと「業務妨害」なるものをデッチ上げて千葉局、本社に泣きつき、弾圧を要請した。

#### 「業務妨害」と当局にタレこむ

七月二二日、デッチ上げ「千葉地本」の革マル嶋田誠らは、夏季輸送期間中のみの「直営売店」に応じ、なんと「一カ月行けば他の活用策をやらなくていい権利ができるんだ」といい、野口にいたっては「一日ジュース三本売ればいいから楽だ」、「動労千葉は反対といながら長期間、駅へ出勤に行っている」といい放ち、動労千葉組合員の怒りを買っている。

従って、執務態度の悪さも有名になっている。ワゴンに腰かけ、ウチワを使いながら、通りかかった動労千葉組合員に挑発をくりかえしているのが嶋田等の日常なのである。

嶋田、佐藤和美らは、千葉駅構内の食堂で食事を終え、食堂を出て次の勤務（便乗）につこうとした千葉運転区支部組合員A君に対し、挑発し、ひと言、ふた言の言い合いを「業務妨害」だとして当局に動労千葉の弾圧を要請したのである。

#### 革マル・嶋田だから起った問題

嶋田誠は東洋大学出身の革マルであり、片岡支部長（当時）の頭蓋骨を骨折させた4・17津田沼事件で、津田沼電車区へ革マル学生を誘導し、加えて6・12「暴力事件」をデッチ上げ、船橋警察にタレこみ六名を不当逮捕させた張本人である。常に動労千葉破壊の先頭に立ってきた憎むべき革マル分子である。

動労千葉組合員が動労「本部」革マルを憎むことは当然であり、とりわけ千葉にいて悪業の限り

をつくしている嶋田が憎まれていることは公然の事実である。嶋田はタレこみとコロビ屋のプロであり、今回の問題は明確に労々問題であり「業務問題」などでは決してないのだ。

#### 乗務交番から降ろし「処分」を策動

デッチ上げ「千葉地本」の斉藤吉司、来栖忠敏は「業務妨害された」として千葉局へ「抗議」するとともに、動労「本部」革マルは本社に泣きつき、「動労が一生懸命に活用策に協力している最中に、動労千葉の組合員が妨害した責任は重大」として「処分」を要求した。

千葉局は七月二七日にA君の事情聴取を行い、二九日には乗務交番からはずし、三十日以降、日勤扱いにしたのである。

これは、革マル反動分子が、ほんの些細なやりとりを「業務妨害」などと、ことさら大げさに騒ぎたて、第二の「6・12」により動労千葉の組織破壊を狙った、きわめて悪質な攻撃であり、当局はこれを利用し、労々問題への不当な介入を行い、動労千葉の弾圧を策動しているのだ。われわれは、当局、動労「本部」革マル一体となった攻撃を断じて許さず、徹底的に闘いぬく決意を明らかにする。

### 全力で結集しよう

8・2「国鉄再建」千葉集會

8・4「破防法粉碎」国民大集會

8月2日(金)8時、千葉市・中央公園  
8月4日(日)11時、東京・日比谷公会堂

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ